

**授業概要**

近年、幼稚園・保育所で、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもが増えてきており、幼稚園教諭や保育士がこれらの子どもについて理解していることが不可欠となっている。また、幼小保連携の観点から、小学校教諭にとっても、障害児とその他の特別な配慮を要する子どもについての理解は重要である。障害児保育Ⅰでは、障害児・者に対する意識や権利に関する考え方を獲得するために、それを支える理念や歴史の変遷などを指導する。授業においては、これらの内容を主体的に学べるよう、特別な支援が必要な人の事例をもとに具体的な支援について指導する。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション、障害児保育Ⅰの概要
第 2 回	障害の概念、歴史の変遷、インクルーシブ保育
第 3 回	合理的配慮の理解、障害児保育の基本
第 4 回	子ども同士の関わりと育ちあい
第 5 回	子どもを見る視点
第 6 回	知的障害児の理解と支援①知的障害の特徴・支援
第 7 回	知的障害児の理解と支援②支援事例
第 8 回	肢体不自由児の理解と支援
第 9 回	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援
第 10 回	視覚障害・聴覚障害児の理解と支援
第 11 回	言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援
第 12 回	発達障害のある子どもの理解と支援①ASD
第 13 回	発達障害のある子どもの理解と支援②ADHD・LD
第 14 回	発達障害のある子どもの理解と支援③支援事例
第 15 回	生活課題を抱える家庭の子ども
第 16 回	最終課題

**到達目標**

- ・障害児・者に関する理念や権利、その背景に関する考え方を説明できる。
- ・各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性を説明できる。
- ・各種の障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの特性に応じた援助を考えることができる。

**履修上の注意**

授業中や予習、復習、課題等でウェブを介した提出物が多くある。初回の授業および必要に応じてその都度、提出手順を説明するが、そのやり方を把握するためにも、基本的に出席していることが不可欠である。特段の事情により、授業に関して配慮が必要な場合は、必ず相談すること。

**予習・復習**

毎回、授業の最後に、復習課題と次の授業の予習課題の内容および提出締め切りを案内する。これらは成績評価に含まれるため、必ず取り組むこと。

**評価方法**

授業中の取り組み 30%、予習 20%、復習 20%、最終課題 30%として評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：障害児保育演習ブック
- ・著者名：松本峰雄・増南太志
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年 (ISBN)：2021 (9784623090686)